

牛群検定通信 No73

～分娩予定日を使いこなそう！～

牛群検定には沢山の情報が詰まっており、どれも重要な情報ばかりです。そして、トップクラスで重要なのが分娩予定日です。飼養管理上の作業スケジュールとしての中心であると同時に、妊娠を管理する繁殖管理としても、将に酪農経営の要となる情報です。

1 妊娠の判定（分娩予定日の表示）

分娩予定日とは、最終授精から妊娠期間 280 日後の年月日を表示したものです。まず当たり前ですが、妊娠判定されなければ分娩予定日は表示されません。逆に言えば、分娩予定日が表示されている牛は妊娠している牛です。牛群検定での妊娠判定には NR 70 法と妊娠鑑定報告の 2 通りがあります。

（1）NR 70 法

最終授精から 70 日間授精報告がない場合に妊娠とみなし、検定成績表に分娩予定日が表示されます。検定成績表に書き出される分娩予定日は細くて小さい弱々しい字体で表記されます。

（2）妊娠鑑定報告

獣医師による妊娠鑑定を受けた場合は、その旨を検定員が報告します。検定員からは、しばしば「P 報告」と呼ばれています。検定成績表に書き出される分娩予定日は太くしっかりした字体で表記されます。

2 分娩予定日の活用

(1) 繁殖チェック

前述のNR70法と妊娠鑑定報告とでは、正確さのレベルは圧倒的に妊娠鑑定報告です。ですので、検定成績表で弱々しい字体で表記された分娩予定日のものは、むしろ「妊娠があやふやな牛なので、妊娠鑑定をしっかりと行わないといけない牛」と捉えてください。妊娠鑑定した上でP報告をすれば、太くしっかりした字体の表記となります。妊娠しているか、していないかという判定は繁殖管理の基礎であり、最も重要なチェックです。

(2) 乾乳

一般には、分娩予定日から2ヶ月引いた日が乾乳予定日となります。乾乳に近くなると、牛が肥りやすくなりますので、濃厚飼料給与は特に気をつけてください。また、乾乳前期は削蹄の好適期です。蹄病予防はもちろん、滑走や転倒事故の予防にもなります。

(3) 分娩

牛群検定の集計では、妊娠期間の標準偏差は4.76日です。と言うことは、分娩予定日の前後5日に分娩する牛が、およそ7割ということになります。また、和牛交雑種や和牛受精卵の場合は、数日間遅くなることも知られています。受精卵の場合は、移植が発情後1週間程度で行われますので、移植日を牛群検定で報告していると、受精卵では分娩予定日は1週間ほど早くなります。